

◆2016年9月17日（土）午後3時から

## 「第12回東日本大震災取材報告会」

継続的に現地に実際に出向かれておられる岸野亮哉氏（僧侶・カメラマン：岩倉在住）から、震災から5年半がたった現在の被災地のようすを報告していただきました。

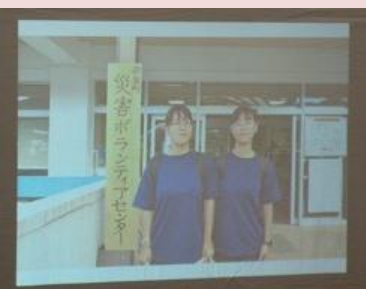
館長からの挨拶で、この半年の間にも多くの被害が日本を襲ったことや、仙台在住の作家の方の震災後書くことに意味があるのかとの悩みがあったことなどが紹介されました。

今回は実際に赴かれた熊本大分地震後の現状、台風10号で被災した岩手県岩泉町の現在の様子も語られました。熊本大分地震の被災地については南阿蘇村や益城町の地割れや避難の様子が写真でも紹介され、岩泉町ではほぼ限界集落に近く、ボランティアなしではその復旧ができないが、雨が続き避難勧告が出続けているためになかなか捗らない現状があること。東日本の被災地では月命日に墓参されている様子や、毎月捜索活動が継続して行われていることなどを1時間にわたり熱心にお話いただきました。

最後にこのようなことがいつ京都にも起こるかもしれない。その対応には先ず地元の災害の歴史を学ぶこともその一つであるとのことでした。

参加者からは「忘れない」ための努力が必要であり、継続したこのような活動に敬意を表しますとの感想をいただきました。

この報告会は今後も継続して続けていかれますので、ご参加をお願いいたします。ご参加いただいた皆様、有難うございました。



京都市岩倉図書館